

2019 年卒
Vol.05

4 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018 年 4 月発行)

企業の採用広報開始から 1 カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。4 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は 18.8% に上り、前年同期を上回っていたことがわかった。

内定状況のほか多岐にわたる項目について、前年同期調査や先月調査と比較しながら特徴を分析したい。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 26.2 社。前年同期調査 (31.7 社) より 5.5 社少ない
- 今後の予定社数の平均は 5.6 社。前年 (7.6 社) を 2 社下回る

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーへの参加社数は平均 9.7 社。1 カ月間で 6.7 社増加
- 今後の参加予定社数は 4.9 社。3 月調査 (11.2 社) の半数以下に減少
- 学内セミナーへの参加は前年に比べ減少が目立つ

3. 企業セミナーで重要だと思うこと、不快だったこと

- 重要なことは「社員と直に話せる場が設けられている」「選考に関する情報が得られる」など
- 不快なセミナーは「内容に乏しい」「所要時間が長すぎる」「話が一方的」など
- 企業セミナーの適切な所要時間は「1 時間 30 分～2 時間」が最多。「2 時間以上」は 2 割未満

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は 87.5%。提出社数の平均は 7.5 社
- 選考試験の平均受験社数は、筆記 4.9 社、面接 3.0 社。いずれも前年同期を上回る

5. 4 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 18.8%。前年同期実績 (14.6%) を 4.2 ポイント上回る
- 内定取得者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは 17.3%
- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「調査・コンサルタント」「インターネットサービス」の順

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界 1 位「情報処理・ソフトウェア」、2 位「水産・食品」、3 位「素材・化学」
- 今後の活動方針は、「これまでに興味をもった企業を中心に活動する」43.9%
- 就職活動を終えたい時期は「6 月」(48.2%) に集中するも、前年の学生より早期終了を希望

調査概要

- 調査対象 : 2019 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,140 人 (文系男子 356 人、文系女子 342 人、理系男子 294 人、理系女子 148 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018 年 4 月 1 日～5 日
サンプリング : キャリタス就活 2019 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

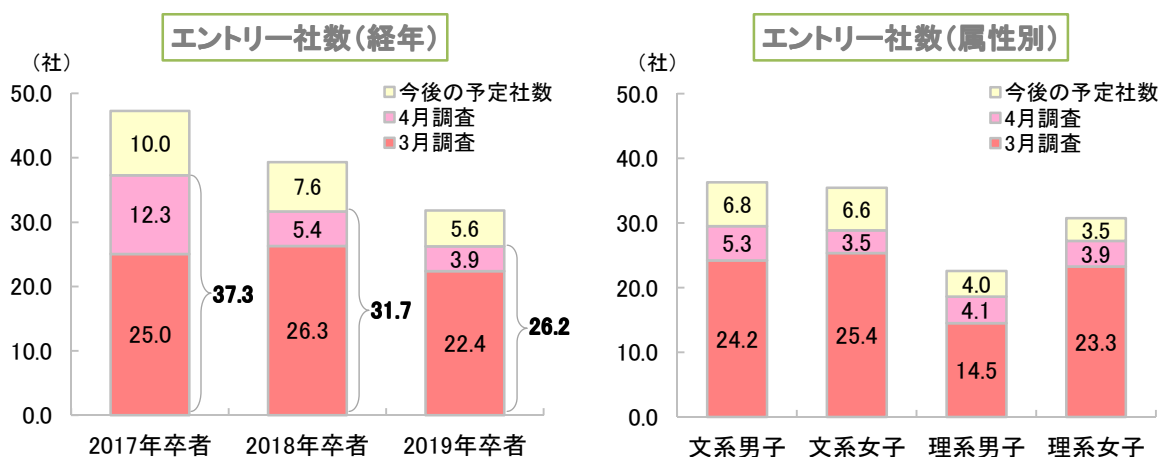
◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. エントリー状況

就職活動本格スタートから1カ月が経過したが、2019年卒者の就職活動はどのように展開しているのだろうか。まず、4月1日時点の活動量を見てみよう。

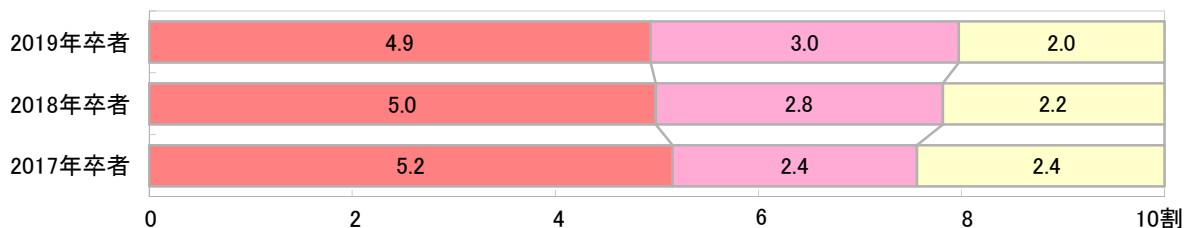
一人あたりのエントリー社数の平均は26.2社。前年同期調査(31.7社)を5.5社下回る。前年との差は先月(3月)調査よりも開いた。エントリーの伸びは鈍く、序盤から企業を絞り込んでいる様子が見え始める。今後のエントリー予定社数は平均5.6社で、前年同期調査(7.6社)より2社少ない。当社が3月下旬に実施した緊急企業調査(有効回答648社)でも、エントリー数が前年より減少し母集団形成に苦戦する企業の様子が表れている。

エントリーした企業を知った時期を経年で見てみると、「3月より前のインターンシップや業界・企業研究などで知った企業」の割合が年々増え、その分「3月1日以降の就職活動で知った企業」の割合が減少している。就活解禁前に知った企業を中心に活動する傾向が強まっていることがわかる。

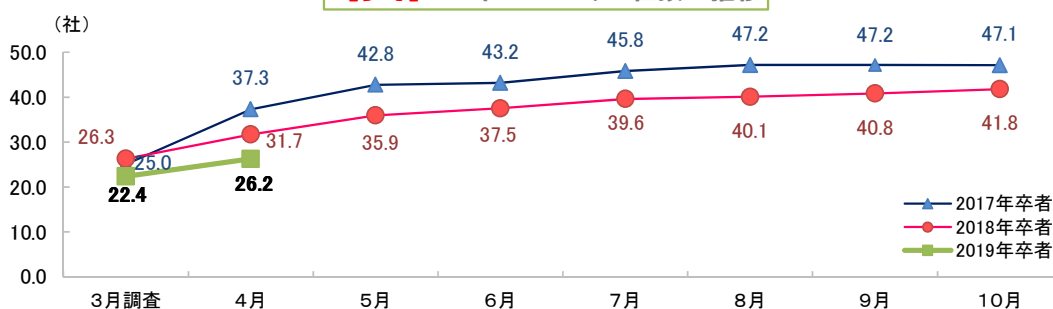


エントリーした企業を知った時期(各年4月時点)

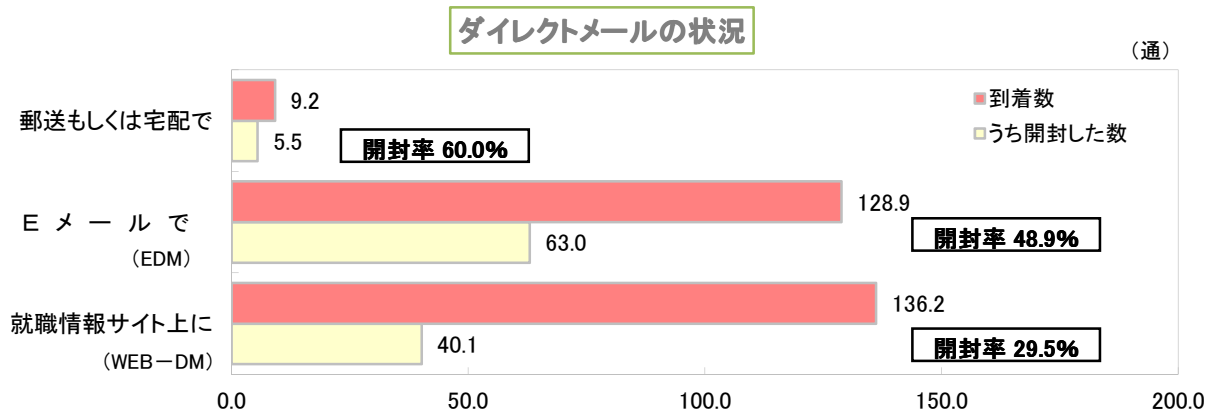
■もともと知っていた企業 ■3月より前のインターンシップや業界研究で知った企業 ■3月1日以降の就職活動で知った企業



【参考】3カ年のエントリー社数の推移



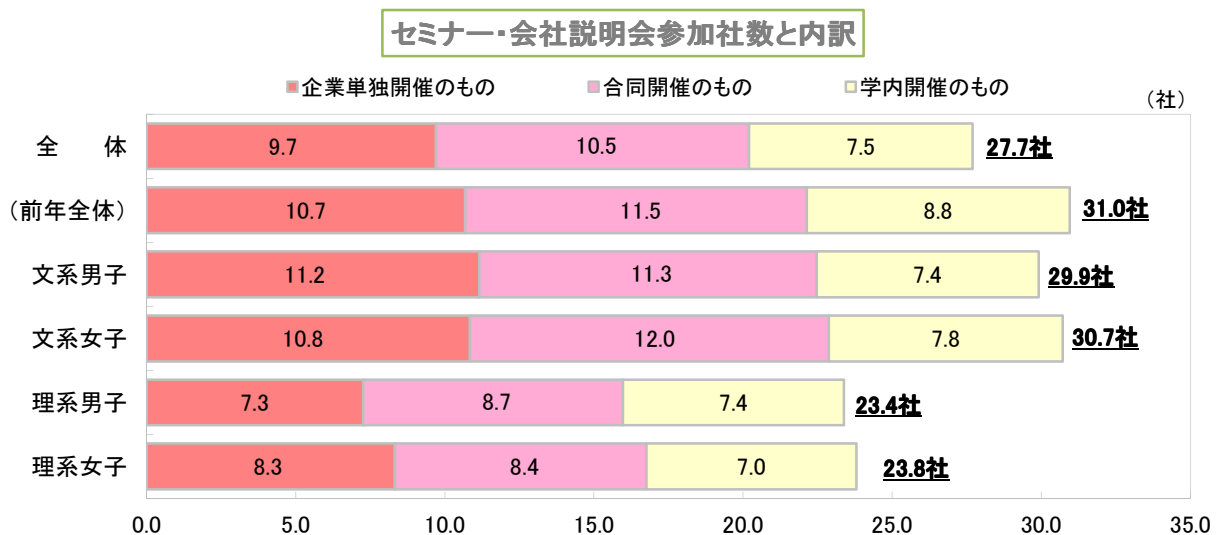
学生が受け取ったダイレクトメールの数を尋ねた。郵送（宅配）が平均 9.2 通、Eメール（EDM）が 128.9 通、就職情報サイト上に届いた WEB-DM が 136.2 通で、合計すると約 274 通になる。開封率を出してみると、郵送が最も高く（60.0%）、EDM（48.9%）、WEB-DM（29.5%）の順だった。



2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数はのべ27.7社で、前年同期（31.0社）を下回る。開催形式ごとに見ると、企業単独開催のものは9.7社。3月調査では3.0社だったので、この1カ月で6.7社増えた。前年同期（10.7社）に比べると1社少ないが、エントリー数が5社以上減っていることを考えると微減にとどまっている。エントリーの段階で志望度がそれなりに高い企業に絞っているからだろう。一方で、学内開催のもの（学内セミナー）は前年より減少が目立つ（8.8社→7.5社）。

企業単独セミナーの今後の参加予定社数は平均4.9社。3月調査では11.2社だったので、半数以下に減少している。参加のピークは超えたと解釈できる。



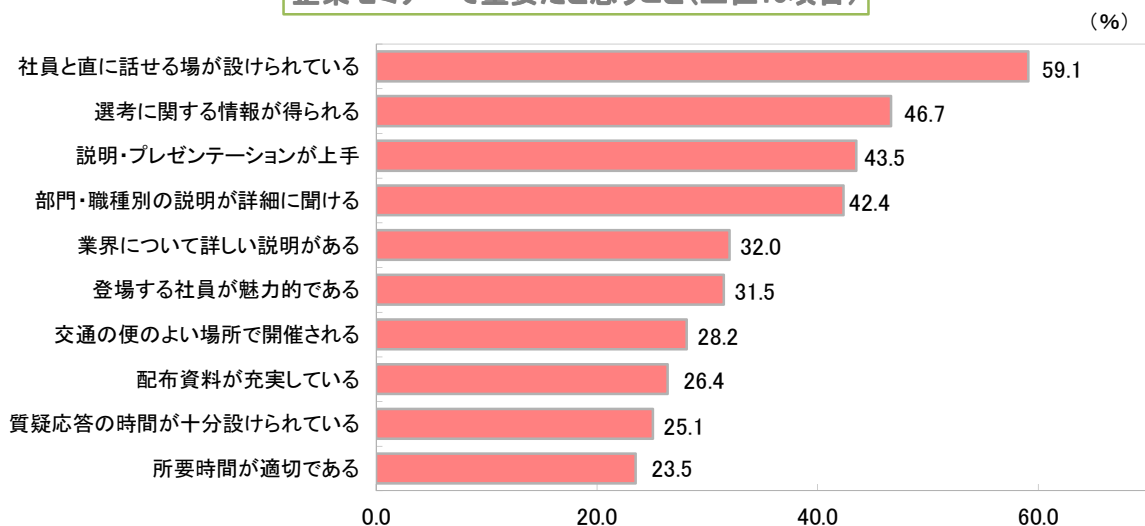
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.7	3.0	2.8	3.3	2.2	2.0
学内開催セミナーへの来場	2.7	3.3	2.8	3.0	2.5	2.5
今後の企業単独セミナー参加予定社数	4.9		6.0	5.9	3.1	3.7

3. 企業セミナーで重要だと思うこと、不快だったこと

セミナーや会社説明会は企業研究の格好の場であるが、学生は企業セミナーで何が重要だと考えて参加しているのかを尋ねた。選択肢から 5 項目まで選んでもらったところ、最もポイントを集めたのは「社員と直に話せる場が設けられている」で、約 6 割が選んだ (59.1%)。次いで「選考に関する情報が得られる」(46.7%) が続き、具体的な選考日程やプロセスへの関心が強いことがわかる。

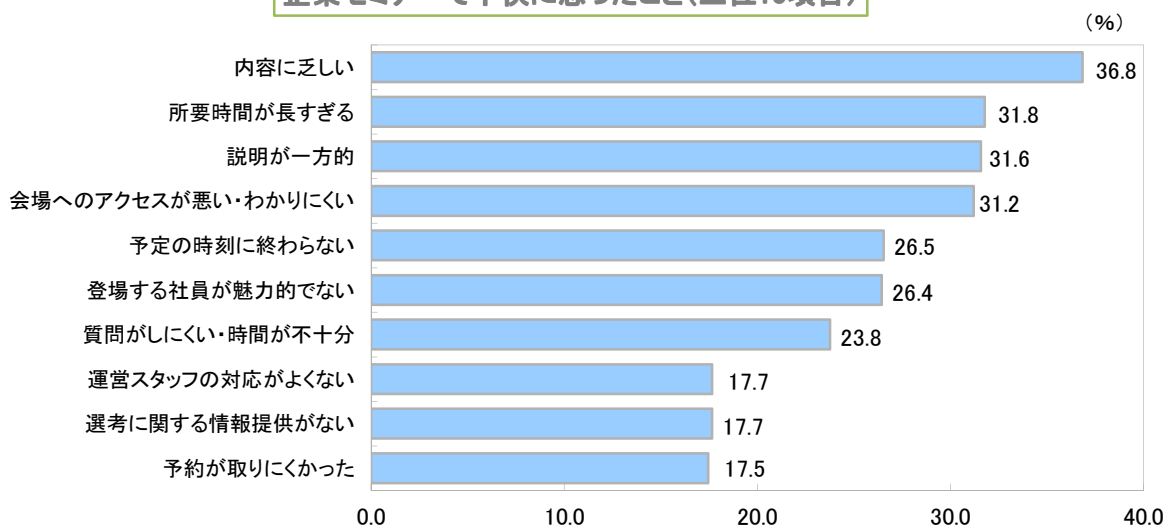
反対に、セミナーで不快だと思った経験を尋ね、あてはまるものをすべて選んでもらった。最も多いのは「内容に乏しい」(36.8%) で、「ホームページに載っている話ばかりだった」「何度も聞いた話だった」など、わざわざ足を運んだにもかかわらず、新しい情報が得られないことを不快に思う学生が多いようだ。次に「所要時間が長すぎる」(31.8%) が続き、過密する就職活動の中で、拘束時間が長いことや予定時間に終了しないことへの不満の声が多く挙がった。こうした不快な思いや不満により志望度を下げる学生も少なくない。

企業セミナーで重要だと思うこと(上位10項目)



※全19項目から5つまで選択。うち、上位10位まで

企業セミナーで不快に思ったこと(上位10項目)

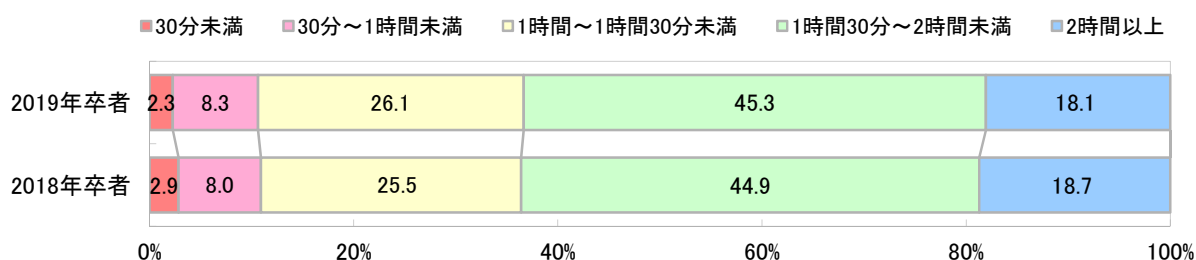


※全21項目からあてはまるものをすべて選択。うち、上位10位まで

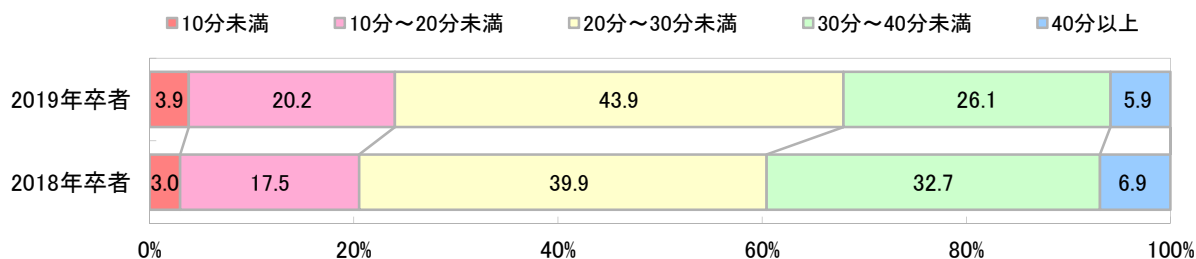
企業セミナーで不快なこととして「所要時間が長すぎる」を選んだ人は約 3 割 (31.8%) だったが、学生から見てどの程度の時間を適切だと思うかを尋ねてみた。30 分単位で回答してもらったところ、最も多いのが「1 時間 30 分～2 時間未満」(45.3%) で、次いで「1 時間～1 時間 30 分未満」(26.1%) が続く。2 時間を超えるセミナーを望む学生は今年も 2 割未満だった (18.1%)。

合同企業説明会の「ブース内説明」の所要時間については、「20分～30分未満」(43.9%)、「30分～40分未満」(26.1%) の順だった。全体的に前年調査よりも短い時間を選ぶ傾向が見られる。30分未満と回答した人を合わせると約7割に上る (68.0%)。合同企業説明会では、学生にとってその企業の入口であるため、興味が持てるかどうかを短時間で見極めたいと考える学生が多いのだろう。

企業セミナーの適切な所要時間



合同企業説明会の「企業ブース内での説明」の適切な所要時間



■よかったセミナーの例

- 一方的に会社の説明をするだけでなく、学生の状況を尋ねたり、リアクションを求めたりするセミナーは印象に残りやすい。 <文系男子>
- 座談会が1時間近く設けられ、社員一人一人と15分程話せた説明会はとてもよかった。 <文系女子>
- 1回目は業界理解中心、2回目は自社理解中心、3回目は座談会など、就活生の企業理解度に応じた選択ができるセミナーがあると、知っていることを何度も繰り返される無駄な時間が大幅に減るのでよい。 <理系男子>
- 社長や役員が話してくれるセミナーではその会社の思いが伝わりやすく、また経営者視点の話が聞けるので有用だと思った。 <理系男子>

■不快なセミナーの例

- ホームページを見ればわかる内容を聞くのは時間の無駄だ。 <文系女子>
- 終了の時刻が記載されておらず、当日に知った終了時刻からも30分以上長引いたこと。 <理系女子>
- 座談会に来ていた社員が働く意欲がない人だった。 <文系男子>
- 後ろに座っている社員が話しているのが気になった。結構いろんな会社で見られた。 <理系女子>
- 抜き打ちのES記入や選考はやめてほしい。 <文系男子>
- できれば一日に複数の説明会に行きたいので、拘束時間が長いと予定が立てにくい。 <理系男子>
- 社員の方が無愛想で淡々と説明をされていた時は、印象が悪くなったし志望するのをやめた。 <文系女子>

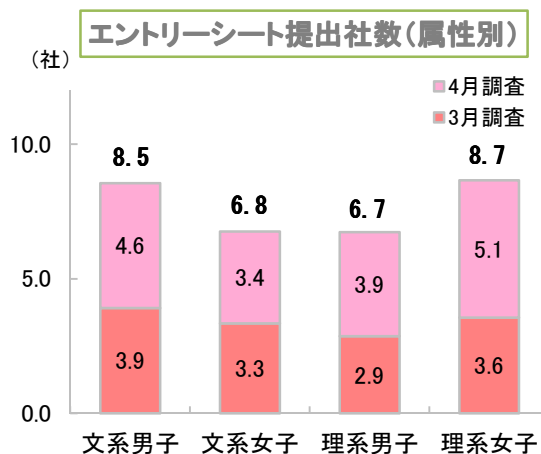
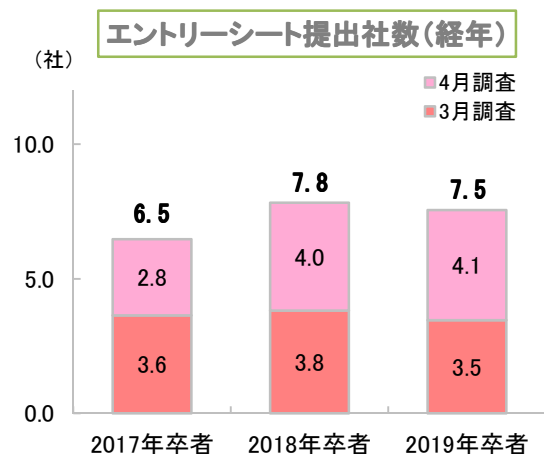
4. 選考試験の受験状況

選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート (ES) を提出した学生は全体の87.5%で、早くも9割近くが提出経験をもつ。提出社数の平均は7.5社で、前年同期 (7.8社) とほぼ同水準を保っている。ただし、締切日を前年より早める企業が目立つことから、提出のタイミングが前倒しになっていると考え、今後は提出のペースは鈍くなるのが予想される。

筆記・WEB試験を受験した学生は85.9%で、面接試験受験者は66.6%。いずれも前年同期を上回る。受験社数の平均は、筆記・WEB試験が4.9社、面接試験3.0社で、社数も前年同期より多い。一人あたりのエントリー社数が減る一方で、選考試験については逆に増えていることから、多くの企業を見ることなく、早いペースで就職活動を進める学生が増えていることが推測できる。

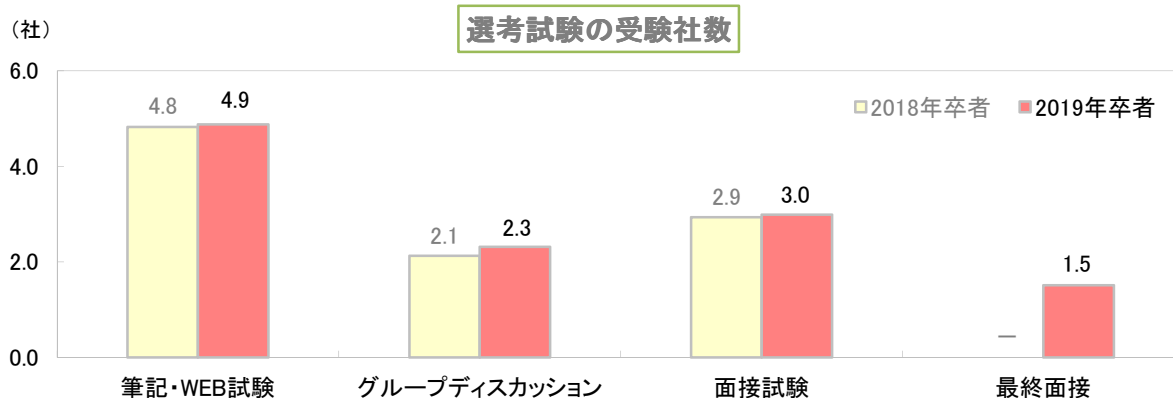
エントリーシート提出の有無

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
提出した	87.5	86.0	86.5	89.8	86.7	85.8
提出していない	12.5	14.0	13.5	10.2	13.3	14.2



選考試験の受験状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験	85.9	79.8	85.1	86.0	86.7	85.8
グループディスカッション	47.3	40.1	52.8	46.2	42.9	45.3
面接試験	66.6	61.5	66.9	64.9	70.4	62.2
最終面接	27.0	-	29.5	21.9	29.6	27.7



※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

※「最終面接」は、前年調査なし

5. 4月1日時点の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の18.8%。先月(3月1日)の8.0%から1カ月間で10.8ポイント増えた。前年同期(14.6%)を4.2ポイント上回り、前年よりも企業の内定出しのペースが早いことがわかる。文理男女別に見ると、文系女子(14.9%)が他の属性よりやや出遅れているが目立つ。

内定率は上昇したが、内定取得者のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは2割弱(17.3%)で、内定者の8割超(80.8%)が就職活動を継続していると回答。モニター学生全体を分母にとると、就職活動を終了した者の割合は3%台とごくわずか。

4月1日現在の内定状況

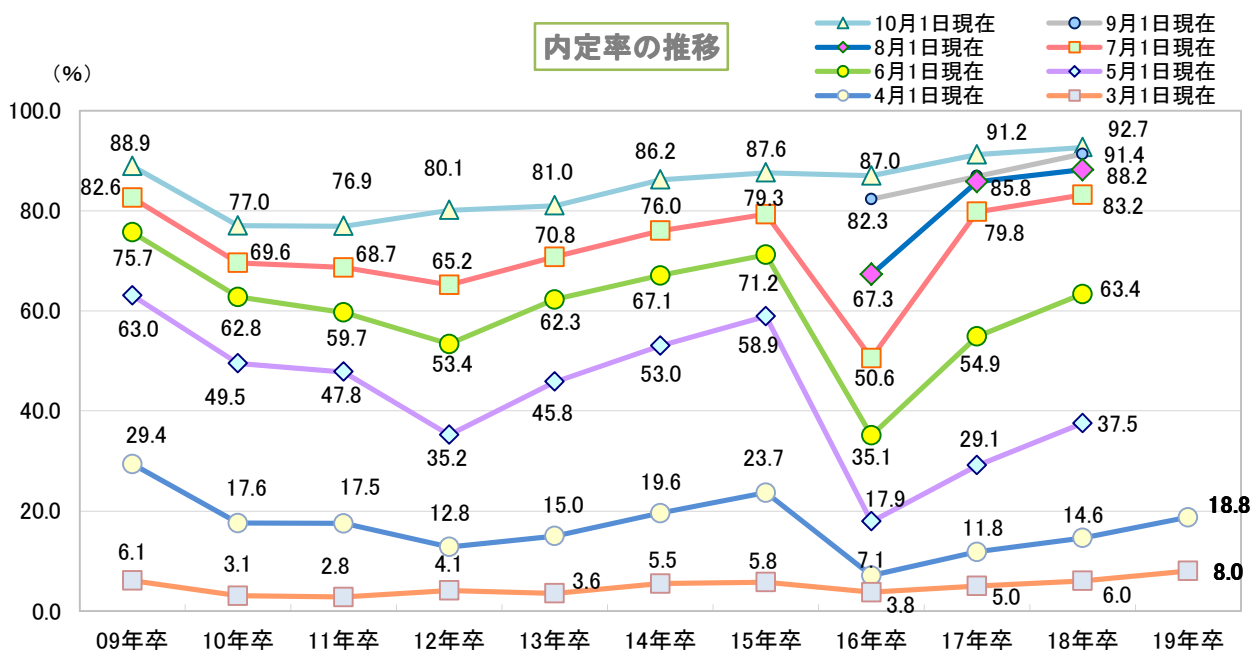
*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		18.8 (14.6)	20.5 (13.8)	14.9 (12.8)	20.7 (16.3)	19.6 (17.7)
内定なし		81.2 (85.4)	79.5 (86.2)	85.1 (87.2)	79.3 (83.7)	80.4 (82.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	17.3 (18.0)	15.1 (10.4)	15.7 (24.5)	26.2 (18.2)	6.9 (24.1)
	活動は終了したが複数内定保持	1.9 (1.5)	1.4 (3.0)	0.0 (0.0)	1.6 (1.8)	6.9 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	80.8 (80.5)	83.6 (86.6)	84.3 (75.5)	72.1 (80.0)	86.2 (75.9)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.3 (1.3)	1.3 (1.5)	1.2 (1.2)	1.4 (1.2)	1.4 (1.3)

(社)



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

4 月 1 日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が 22.4%で最も多く、「調査・コンサルタント」(18.7%) が 2 位。この 2 業界は文系理系ともに 1 位と 2 位を占めている。3 位以下は「情報・インターネットサービス」(11.2%)、「建設・住宅・不動産」(9.3%)、「その他サービス」(8.9%) の順だった。

内定を得た企業の従業員規模の比率を出し、前年同期調査と比較してみた。最も多いのは「1,000 人～4,999 人」で変わらないものの、割合は下がり (33.1%→28.6%)、「299 人以下」の割合が増加した。中小企業において、内定の前倒しが進んだようだ。

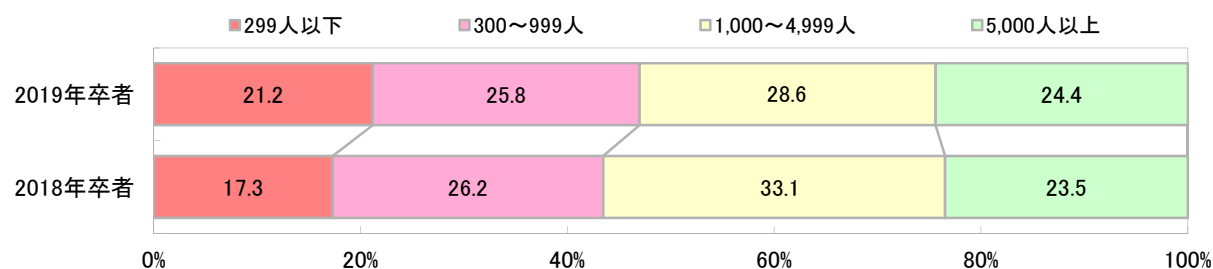
なお、内定を得た企業のインターン参加経験もあわせて尋ね、同様に比率を出してみたところ、内定企業の 58.3%がインターンシップに参加した企業だった。3 月調査 (62.7%) より 4.4 ポイント減少したものの、依然として過半数に上る。

内定を得た業界 (上位 5 業界)

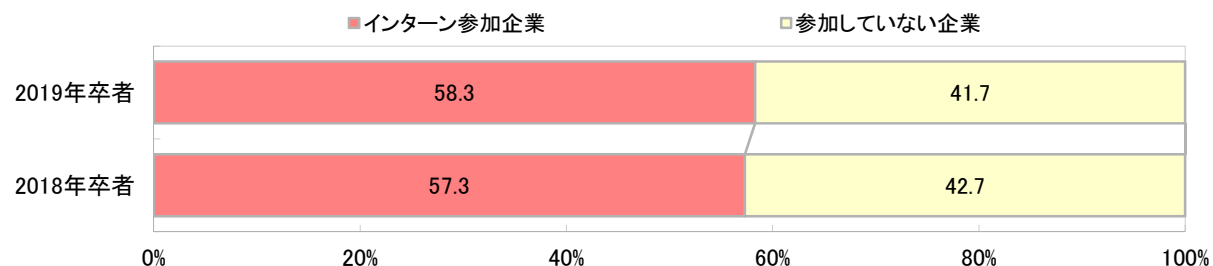
全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 19.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 26.7		
2	調査・コンサルタント 18.7	調査・コンサルタント 18.5	調査・コンサルタント 18.9		
3	情報・インターネットサービス 11.2	情報・インターネットサービス 12.9	医薬品・医療関連・化粧品 14.4		
4	建設・住宅・不動産 9.3	建設・住宅・不動産 11.3	情報・インターネットサービス 8.9		
5	その他サービス 8.9	その他サービス 10.5	通信関連 7.8		

※「その他サービス」=セキュリティサービス、介護・福祉サービス、冠婚葬祭などのサービス業

内定を得た企業の従業員規模



内定を得た企業のインターン参加有無



6. 就職活動継続学生の動向

最後に、内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の 96.4%) の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(16.1%) で、以下「水産・食品」(15.5%)、「素材・化学」(14.9%)、「官公庁・団体」(14.2%) と続く。前年 1 位だった「銀行」は 7 位へと順位を下げた。

文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が最も多いが、いずれも前年よりもポイント数が大きく下がった (文系男子 29.3%→20.1%、文系女子 25.9%→18.8%)。理系は男子において IT 業界の人气が高く、女子は「水産・食品」「医薬品・化粧品」「素材・化学」の 3 業界に人气が集中している。

就職活動継続者の志望業界 (上位 10 業界)

※5 つまで選択 (%)

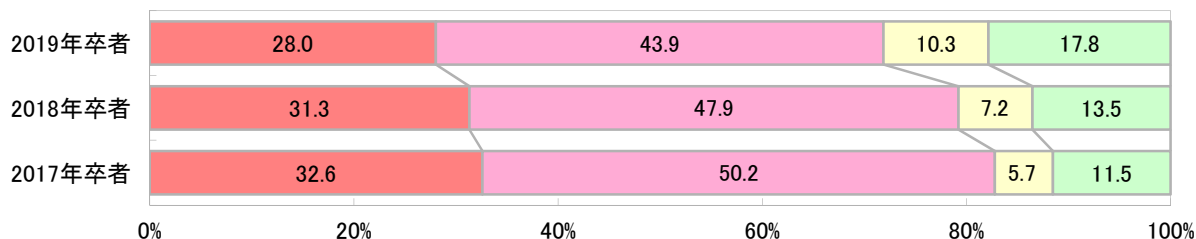
	全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑤	16.1	銀行	20.1	銀行	18.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	25.0	水産・食品	41.0
2	水産・食品 ②	15.5	運輸・倉庫	19.7	マスコミ	17.1	情報・インターネットサービス	23.5	医薬品・医療関連・化粧品	38.8
3	素材・化学 ②	14.9	官公庁・団体	16.8	官公庁・団体	16.4	素材・化学	21.2	素材・化学	33.6
4	官公庁・団体 ④	14.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.1	保険	13.3	電子・電機	20.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	14.9
5	情報・インターネットサービス ⑧	14.1	調査・コンサルタント	14.1	商社 (専門)	13.0	自動車・輸送用機器	16.2	調査・コンサルタント	11.9
6	医薬品・医療関連・化粧品 ⑥	13.8	商社 (総合)	14.1	運輸・倉庫	12.6	機械・プラントエンジニアリング	15.4	官公庁・団体	11.2
7	銀行 ①	13.2	情報・インターネットサービス	13.8	水産・食品	12.6	医薬品・医療関連・化粧品	13.5	精密機器・医療用機器	9.7
8	運輸・倉庫 ⑨	12.2	建設・住宅・不動産	11.2	建設・住宅・不動産	12.3	調査・コンサルタント	13.1	建設・住宅・不動産	8.2
9	調査・コンサルタント	11.5	保険	11.2	ホテル・旅行	12.3	通信関連	12.7	情報・インターネットサービス	7.5
10	電子・電機	11.3	商社 (専門)	11.2	商社 (総合)	11.6	水産・食品	11.5	通信関連	7.5
							建設・住宅・不動産	11.5		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

今後、就職活動をどのように進めていくつもりかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「これまでに興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する」(43.9%) だが、この3カ年の変化を見ると、年々割合が減っている。「新たな企業を探しながら広げていく」(28.0%) も同様に減少傾向だ。代わりに「志望度の高い企業に絞って」(17.8%) と「現在選考が進んでいる企業に絞って」(10.3%) が増加しており、早くから絞り込みが進んでいることがこの指標からもうかがえる。

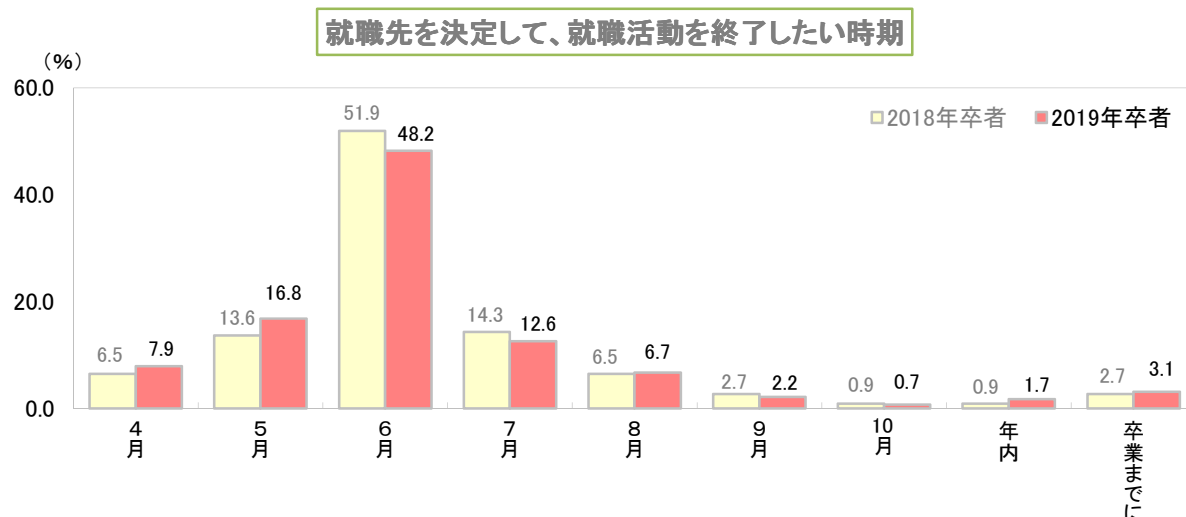
今後の就職活動の方針・戦略

- 新たな企業を探しながら、持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業のみ絞って活動する

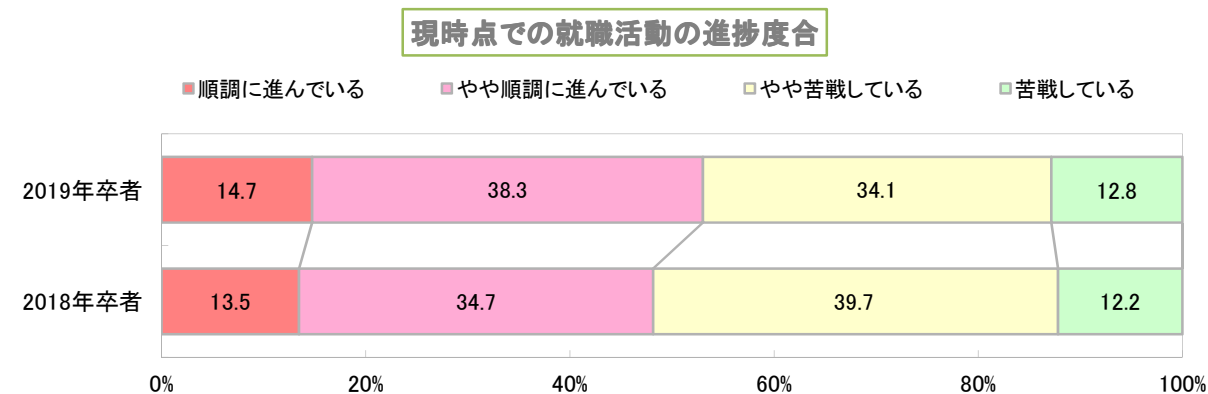


※各年4月調査

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は「6月」に集中しているが、前年同期調査よりも割合が下がり (51.9%→48.2%)、その分、それより前の「4月」や「5月」の割合が増している。より早い時期に終わりたいと考える学生が増えていることがわかる。6月の選考解禁を待たずに終了したいと考えている学生は合計 24.7%。



続いて、自身の進捗度合をどのように感じているかを尋ねた。「順調に進んでいる」「やや順調に進んでいる」と回答した学生を合わせると 53.0%。前年同期調査 (計 48.2%) を 4.8 ポイント上回り、順調が苦戦を上回った。順調だという学生は、ES や面接など選考が順調に進んでいることを理由に挙げるケースが大半だ。一方、苦戦しているという学生からは、ES が思うように書けないなど準備不足を悔やむ声が目立つ。



■「順調に進んでいる」と思う理由

- エントリーシートもすべて通過し、半分以上の会社からリク面に誘われているため。 <理系男子>
- ほとんど落ちない。周りの友人も順調に進んでいる。 <文系男子>
- 特にストレスもなく、余裕をもって活動できているため。 <文系女子>
- 第二志望の企業から内定が出て、後は第一志望の企業の面接を受けるのみである。 <理系女子>

■「苦戦している」と思う理由

- 自己分析ができておらず、ES が書けない。やりたいことがわからないので、手当たり次第に受けているが、それだと志望動機がなかなか思いつかない。 <文系男子>
- どこからも内定が出ていなく、WEB テストやエントリーシートが間に合っていない。 <文系女子>
- 研究活動と両立を図っているが、就活がこま切れに挟まってくるのはしんどい。 <理系男子>